

ナトリウム含有の鎮痛薬アセトアミノフェンで 心臓血管病・死亡のリスクが上昇

これまでの研究で、高血圧患者においてナトリウム (Na) の摂取が多いと心臓血管病および全死亡のリスクが上昇することが示されているが、高血圧のない人でもその関連があるのかはよくわかっていない。本研究では、Na を含有するアセトアミノフェンと含有しないアセトアミノフェンの服用による心臓血管病のイベントのリスクを、高血圧既往の有無により 2 つのコホートを設定して比較検討した。

高血圧患者群 (平均年齢 73.4 歳) では、Na 含有アセトアミノフェンの初回服用後 1 年間で 4,532 例中 122 例 (5.6%) に、Na 非含有のアセトアミノフェンの服用では 146,866 例中 3,051 例 (4.6%) に心臓血管病 (心筋梗塞・脳卒中・心不全) が発生し、ハザード比は 1.59 と Na 含有アセトアミノフェン群でリスクが高かった。高血圧の既往がない群 (平均年齢 71.0 歳) では、Na 含有アセトアミノフェンの初回服用後 1 年間で 5,351 例中 105 例 (4.4%) に、Na 非含有のアセトアミノフェンの服用では 141,948 例中 2,079 例 (3.7%) に心臓血管病が発生し、ハザード比 1.45 と Na 含有アセトアミノフェン群で高かった。全死亡についても同様の傾向がみられた。

したがって、Na 含有アセトアミノフェンの服用は、高血圧既往の有無にかかわらず、心臓血管病および全死亡リスクの上昇と関連することが示された。今回の知見より、Na 含有アセトアミノフェンの服用で不必要に Na を摂取することは避けることが望ましいといえる。

出典 : *European Heart Journal*. 2022 Feb 24; ehac059.